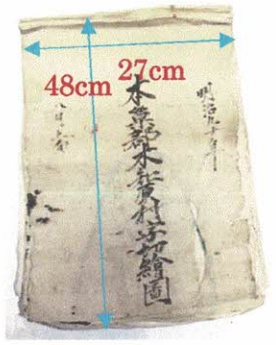


木知原の今昔!

47号 24:9・27

明治シリーズ(ii)



木知原村字切繪圖

字切

繪図(あざきりえず)。別名「地押調査図」とも言う。

字切繪図とは明治6年(1873)の地租改正以降に約5か年かけて全国統一の作図法で画かれた地籍図である。地価(新税)算出の基本台帳でしょう。

字切繪図帳は「縮尺(1/600)・線種・色使・数字・記載の順序」等、全て全国で統一された作図法で地番・地目・地形・所有者・面積が記載されている。

・特に川や水路の土地の接し方を詳しく記載している。

国の税金を安定させるという大改革への並々ならぬ対応ぶりが垣間見られる資料。

“一丁目一番地”は門洞口

木知原村は「明治9子年:八月上旬」に調査が完了。

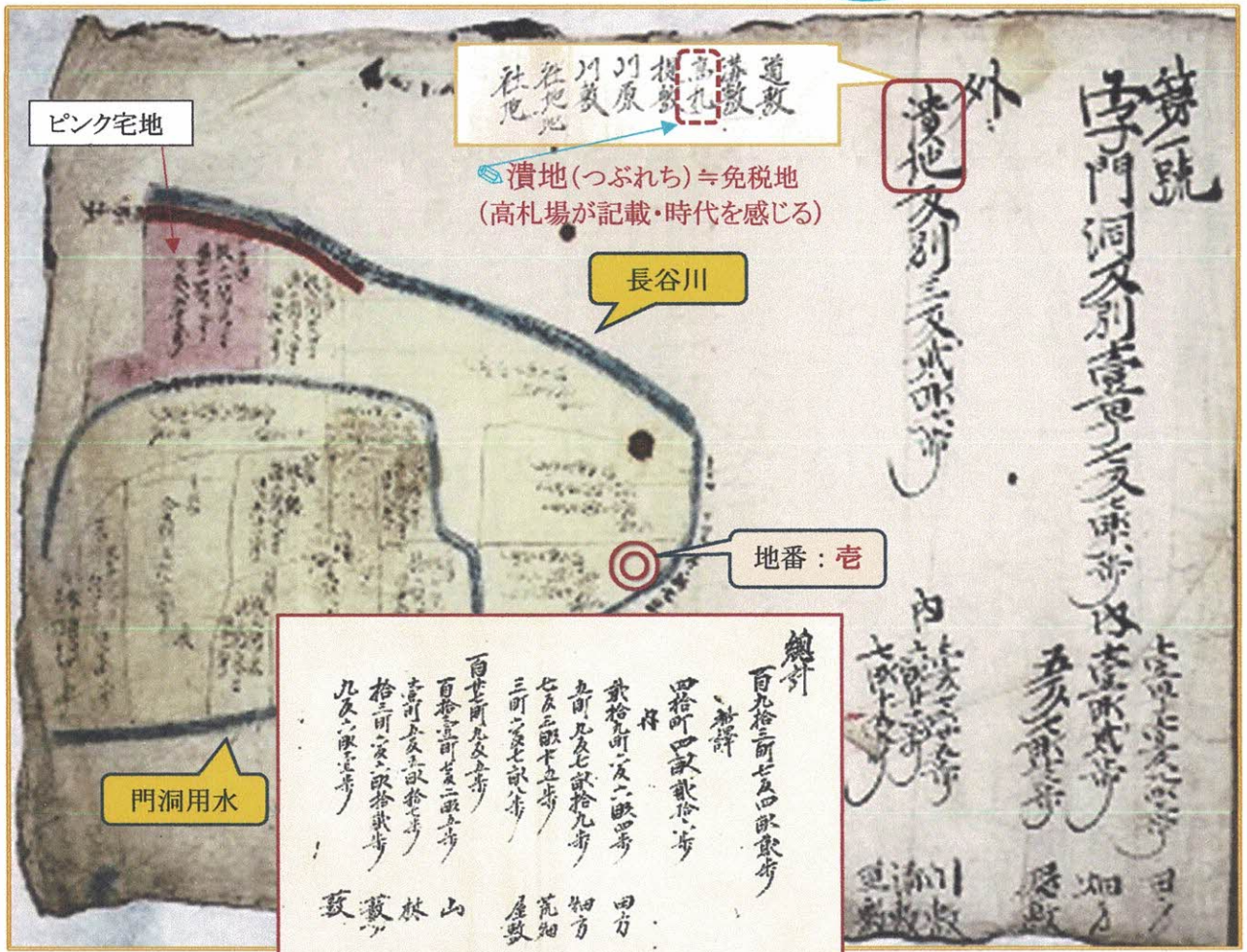
繪図帳は全56枚という膨大な量の記録簿である。

下図は第一號一頁。(概略を把握できれば)

古文書の年号に干支が表記されているのは、年号が頻繁にかわる為に発刊年度が分からなくなるのを避けるため。(干支は60年サイクル)

明治以降は「十二支」のみで、明治9年は「丙子(ひのえね)」の「子」のみとなっている。

令和6年は「甲辰(きのえたつ)」を「たつ年」と...



この字切繪図を基に「地価と税」が決まり「地券」(前号写真)が発行された。

「同じ面積なのに何故税金が異なる?」「うちより広いのに税金が安い!納得できぬ」といった疑問や不満も一揆の要因になったことは容易に推測できる。現在でも?